

オンラインによる 「子どもたちのための日本語教育研修」の成果

原瑞穂・小西円・谷啓子・工藤聖子(東京学芸大学)

※2024年度日本語教育学会秋季大会ポスター発表「子どものことばの教育に関する研修の内容・構成の検討—学校教員・地域支援者を対象とする研修のアンケートから—」を基にした内容です。

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。



東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育推進ユニット

分科会Ⅰ(2)

オンラインによる「子どものための日本語教育研修」の成果

1. 子どもの日本語教育のオンライン研修開発の背景
2. 研修デザインの枠組み
3. 2024年度オンライン研修　－改善・工夫－
4. 研修の構成と内容
5. 研修の評価　－参加者のアンケート結果より－
6. 研修の成果
7. 今後の研修に向けた課題



1. 子どもの日本語教育のオンライン研修開発 の背景



現状・課題

- ・学校教育における「特別の教育課程」等の制度面の整備化
職務としての研修機会が少ない
担当者の孤立・奮闘
- ・様々な機関等がオンラインで研修を企画実施
自主参加、情報提供型

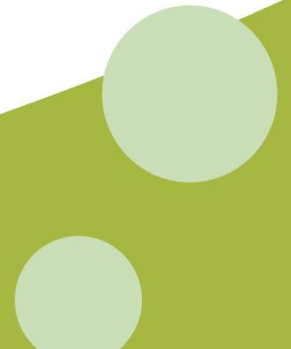
- ・「特別の教育課程」による日本語指導の編成・実施
- ・学習指導要領に対象・指針を明記
- ・外国人の子供の就学の促進及び就学状況の把握等の自治体への通知
- ・「日本語教育の推進に関する法律」の制定・施行

本事業 オンライン研修

2023年度 情報提供＋情報交換会

2024年度 教師の資質能力の明示＋情報提供
＋授業づくり

2. 研修デザインの枠組み



外国人児童生徒等の教育を担う教員の資質能力（日本語教育学会2020）

資質能力	課題領域
【捉える力】 外国人児童生徒等の実態を言語能力のみならず，生育・学習歴，文化適応状況などから多面的に把握し，家族とその文化，社会的歴史的背景を理解する力	[子どもの実態の把握]
	[社会的背景の理解]
【育む力】 日本語指導に加え，教科学習に参加するための力を育成し，本人および周囲の児童生徒や関わる人々が，文化的多様性を尊重し，対等に，そして相互に関わりあうための異文化間能力の涵養を促す力	[日本語・教科の力の育成]
	[異文化間能力の涵養]
【つなぐ力】 外国人児童生徒等が学び・暮らす学校と地域の連携をはかり，異領域の専門家との協働等により，それぞれの場での学びをつなぎ合わせる環境をつくる力	[学校づくり]
	[地域づくり]
【変わる／変える力】 外国人児童生徒等教育に携わることを通して教育における公正性を具現化し，文化的多様性に対して寛容な学校・地域づくりに貢献することと，その営みを通して教師(教員・支援員)として成長していく力	[多文化共生社会の実現]
	[教師としての成長]



図1 外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力 「豆の木モデル」

3. 2024年度オンライン研修　－改善・工夫－



2023年度研修 情報提供＋情報交換会

成果:「使える」授業アイデア・技術の獲得

課題:自身の取り組みを振り返り,
資質能力の相対化と向上への意識化

2024年度研修

- ①目標達成のための授業づくり(グループワーク)の課題の選択と活動展開
- ②各回の課題の焦点化と「目標とする資質・能力」の明示
- ③対象者範囲の特定化
(初任者等経験の短い者3年目まで)

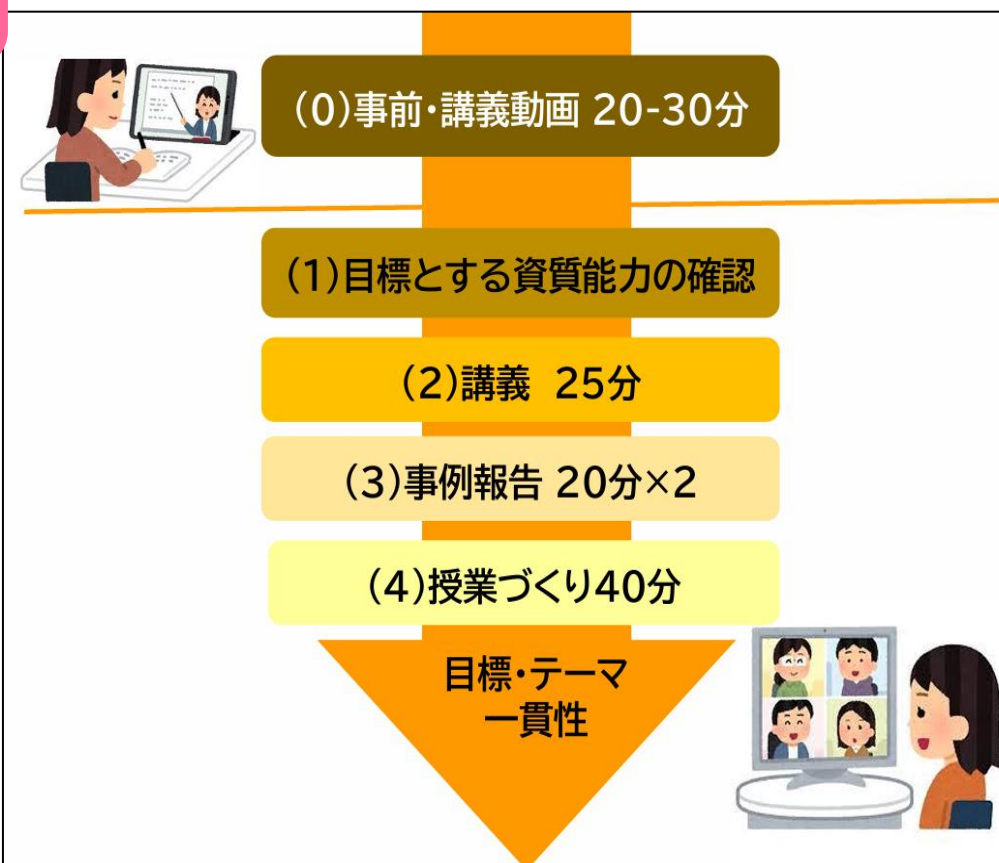
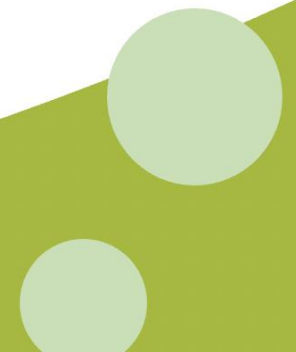


図2 2024年度研修の構成

研修の内容・構成

回／実施日／テーマ	目標とする 【資質・能力】【課題領域】	内容・構成
第1回 6月9日(日) 来日間もない子どもの 受入れと日本語指導の 工夫～はじめてとはじめ てが会って～ 参加者88名 経験4年未満51%	【捉える力】 【子どもの実態の把握】 【育む力】 【日本語・教科の力の育成】	(0)事前課題 講義動画視聴 (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義 ①「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」 ②「幼小の学びの連続性について—子どもの学びの特性に着目して」 (3)事例報告 ①小学校低学年「はじめての日本語で楽しく話そう」 ②小学校中高学年「小学校中学年からの学習支援—日本語ゼロでも学べる教科と日本語」 (4)授業づくり(グループワーク) 三つの課題からグループで一つ選択 ①指示が伝わらない時の工夫 ②文型「～から(理由)」の指導の工夫 ③読み書きへの意欲を高める工夫
第2回 7月7日(日) おしゃべりができる子ど もへの学習参加支援 ～みんなの考え・わたし の考え～ 参加者107名 経験4年未満73%	【育む力】 【日本語・教科の力の育成】	(0)事前課題 講義動画視聴 (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義「子どもが学習参加するための力を育む日本語指導の工夫」 (3)事例報告 ①小学校「子どもたちが考え、伝え合う場をつくる—読書カード活動等を例に」 ②中学校「JSL国語科「古典」単元の授業実践-比較分析する力を活かす」 (4)授業づくり(グループワーク) 小5理科「雲のようすと天気の変化」 在籍学級の授業に参加するために日本語教室で学ぶ授業案を作成
第3回 8月22日(木) 自己表現を支えることば を生む環境づくり ～社会とわたしを繋ぐ～ 参加者88名 経験4年未満54%	【育む力】 【日本語・教科の力の育成】 【異文化間能力の涵養】	(0)事前課題 ①講義動画視聴 ②授業づくりの準備(情報整理) (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義「アイデンティティから考える自己表現とことばの教育」 (3)事例報告 ①中学校「仲間との関係性の中で自分の生き方を見つめる授業デザイン」 ②小学校「こどもたちの持つことばときもちに光があたる工夫と取り組み」 (4)授業づくり(グループワーク) 各自「ことばで自己を表現する活動」の案を考え、グループで意見交換

4. 研修の構成と内容



実施の流れ　－目標・テーマの一貫性－

広報　実施約1カ月前

研修　(0) 事前動画 (約20分)

－当日－

(1) 目標とする資質能力の確認

(2) 講義 (25分)

(3) 事例報告 (20分×2)

(4) 授業づくり (35～45分)

共有 (10分)

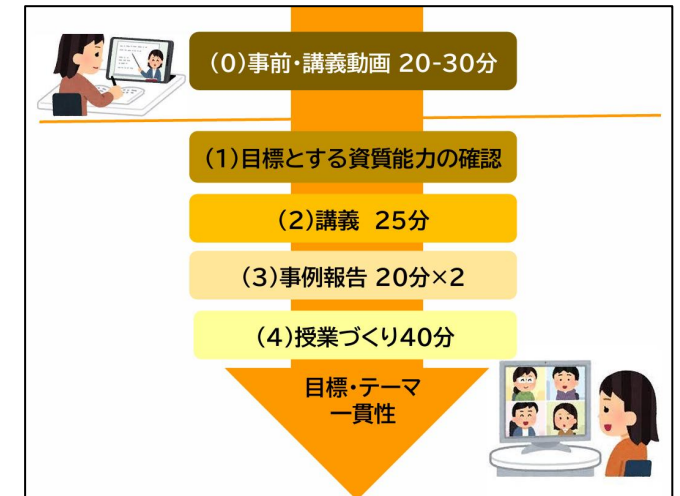


図2 2024年度研修の構成

広報

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育推進ユニット(ユニットC)

「多様性が活かせることばの教育」

研修B 幼・小・中・高を結ぶことばの学び

日時:2024年6月9日(日) 13:30-16:00

会場:オンライン(Web会議システム zoom) 定員:100名

対象:比較的経験の短い

日本語学級担当教員、日本語指導者、地域の支援者

第1回 「来日間もない子どもの受入れと日本語指導の工夫 ～はじめてとはじめてが会って～」

教員・支援者にとって、はじめての日本語指導担当。子どもと保護者にとって、はじめての日本、はじめての日本の学校。お互いの「はじめて」を少しでも安心できるものにするために、日本語を学ぶ子どもたちの心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、学校でのスムーズな受け入れと日本語指導について検討します。また、具体的な工夫を共に考え、共有する活動を行います。

13:30-14:00 趣旨説明・講義

「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」

谷 啓子(東京学芸大学)

「幼小の学びの連続性について～子どもの学びの特性に着目して～」

原 瑞穂(東京学芸大学)

14:00-14:50 事例報告

報告1 東京都新宿立大久保小学校 教諭 柏木めぐみ

報告2 横浜市立潮田小学校 教諭 高瀬 円

14:50-15:50 交流「授業づくり」

日本語初期段階の子どもを想定し、指導の工夫についてグループに分かれて話し合いをします。異なる3つのタスクに取り組み、グループ間で共有します。

15:50-16:00 閉会

研修A「文化間移動
する高校生の日本語
指導」

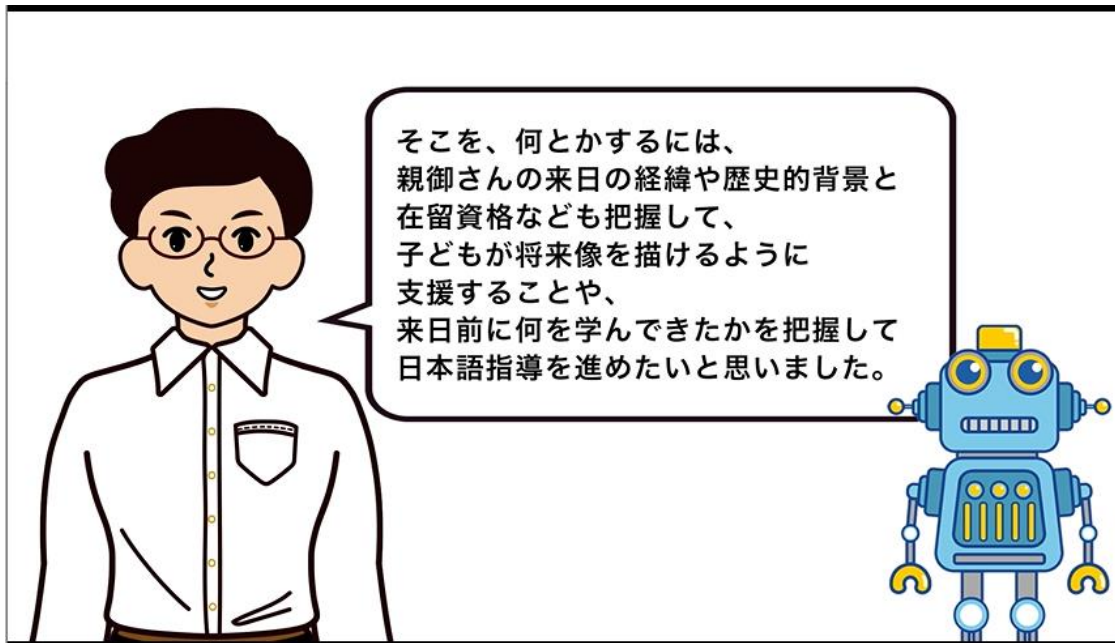
ターゲットとテーマ
の明示

(0) 事前動画

各回に合った動画を再編集、
参加者限定で事前視聴（約20分）

研修コンテンツ 『外国人児童生徒等の日本語指導』 担当講師・内容構成

	講座名	講師	内容構成
講座 1	外国人児童生徒等の受入とその体制	見世・原・齋藤	見世・原・齋藤
講座 2	多様な言語的文化的背景をもつ子どもたちの指導・支援の仕組みー就学前から小・中・高へと学びをつなぐー	谷	谷・齋藤
講座 3	子どもたちの日本語教育ーことばを育み、教科学習への参加を促すー	小西	小西・齋藤・河野・稲田
講座 4	ことばを育む教育の実際	工藤・齋藤	工藤・齋藤・市瀬・谷
	実践事例（協力） 東京都新宿区立大久保小学校、柏木めぐみ先生		
講座 5	教科学習への参加を促す教育の実際	齋藤	齋藤
	実践事例（協力） 東京都羽村市立松林小学校、千葉多恵子先生 東京都福生市立福生第二中学校、一瀬知未先生		
講座 6	未来を拓く教育ー子どものアイデンティティと教師の成長ー	米本	米本
	インタビュー 岐阜県可児市立蘇南中学校、青山岳史先生		
	座談会 東京都豊島区立豊成小学校、阿相俊平先生 東京都板橋区立板橋第八小学校、衛藤景太先生 東京都福生市立福生第一小学校、小森麻亜沙先生		



初任の先生が学ぶ
ストーリー仕立て

動画は2025年4/1以降、本ユニット
HPで再編集版が無料公開されます。
是非ご活用ください。



(2) 子どもが日本語を学ぶこと

成長・発達過程にある子どもにとって…
ことばを獲得すること

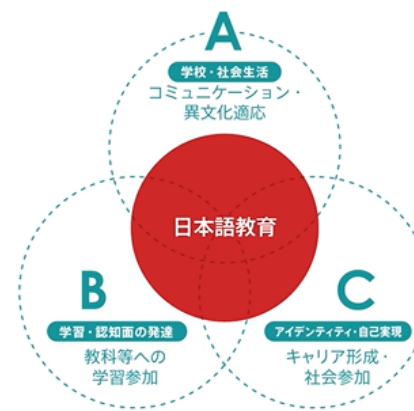
= 世界を広げ成長・発達すること
≠ 単なる日本語の知識・技能の獲得

日本語教育



成長・発達を支える全人的な教育

1 子どもに日本語を教えること



3つの側面から日本語指導の目標を設定

—当日—（Ⅰ）目的とする資質能力の確認

第1回「来日間もない子どもの受入れと日本語指導の工夫 ～はじめてとはじめてが出会って～」

教員・支援者にとって、はじめての日本、はじめての日本の学校、はじめての日本語を学ぶ子どもにするために、日本語を学ぶ子どもと日本語指導について検討します。また、具体的な工夫を共に考え共有する活動を行います。

目的とする資質能力

13:30-14:00

趣旨説明・講義

「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」

谷 啓子(東京学芸大学)

「幼小の学びの連続性について～子どもの学びの特性に着目して～」

原 瑞穂(東京学芸大学)

14:00-14:50

事例報告

報告1 東京都新宿立大久保小学校 教諭 柏木めぐみ

報告2 横浜市立潮田小学校 教諭 高瀬 円

14:50-15:50

交流「授業づくり」

日本語初期段階の子どもを想定し、指導の工夫についてグループに分かれて話し合いをします。異なる3つのタスクに取り組み、グループ間で共有します。

15:50-16:00

閉会

(I) 目的とする資質能力の確認

研修B 「幼・小・中・高を結ぶことばの学び」がねらいとする資質・能力

回	資質・能力	具体的目標
1	・捉える力（子どもの実態の把握） ・育む力（日本語・教科の力の育成／	ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。 イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。 コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。
2	・育む力（日本語・教科の力の育成）	コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容（教科等）と日本語を統合した指導・支援をすることができる。 ス 子どもの日本語の力を考慮して教材等を選んだり作成したりしてリソースを準備し、学習参加を促すことができる。
3	・育む力（日本語・教科の力の育成／異文化間能力の涵養）	セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容（教科等）と日本語を統合した指導・支援をすることができる。 タ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。

全3回



文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業
「豆の木モデル」(日本語教育学会2019)よ

(2) 講義と(3) 事例報告 —スピーカーの選定—

第1回「来日間もない子どもの受入れと日本語指導の工夫 ～はじめてとはじめてが出会って～」

教員・支援者にとって、はじめての日本語指導担当。子どもと保護者にとって、はじめての日本、はじめての日本の学校。お互いの「はじめて」を少しでも安心できるものにするために、日本語を学ぶ子どもたちの心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、学校でのスムーズな受け入れと日本語指導について検討します。また、具体的な工夫を共に考え、共有する活動を行います。

13:30-14:00 趣旨説明・講義

- 「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」
谷 啓子(東京学芸大学)
- 「幼小の学びの連続性について～子どもの学びの特性に着目して～」
原 瑞穂(東京学芸大学)

14:00-14:50 事例報告

- 報告1 東京都新宿立大久保小学校 教諭 柏木めぐみ
- 報告2 横浜市立潮田小学校 教諭 高瀬 円

14:50-15:50 交流「授業づくり」

日本語初期段階の子どもを想定し、指導の工夫についてグループに分かれて話し合いをします。異なる3つのタスクに取り組み、グループ間で共有します。

15:50-16:00 閉会

講義講師と事例報告者の役割の明確化

講師の役割：

事前動画の講義内容のポイントをふりかえり、各回のテーマに必要な基礎的知識を確認

事例報告者の役割：

各回のテーマ・目的に則した事例。

子どもの実態を捉え、能動的に学べるように工夫をしている事例。

報告内容は、目的、実践内容・方法、子どもの反応、意義など。

(4) 授業づくりタスクと共有

研修B 幼・小・中・高を結ぶことばの学び

日時:2024年7月7日(日) 13:30-16:00

会場:オンライン(Web会議システム zoom) 定員:100名

対象:「今年、初めて」、「まだ、経験は数年」という

日本語指導・支援に携わる学校教員・支援員・支援者のみなさん

第2回 「おしゃべりができる子どもへの学習 ～みんなの考え・わたしの考え～」

日本語を学ぶ子どもたちは、日常のおしゃべりができるようになっていく中で、困難を感じることが少なくありません。では、どのような活動への参加によって、在籍学級等で仲間と一緒に教科等の学習に参加する力を育むことができるのか。本研修では、小・中学校の子どもたちがもつ認知面の力を活かし、学習の力を結び、育むための支援について検討します。スキルを習得した子どもたちが教科等と日本語の統合学習(文部科学省「JSLカリキュラム」)の例を通して、日本語教育を「みんなの考えを知り、わたしの考えを伝える」場としてデザインすることを学び、活動づくりにチャレンジしましょう。受講される方には、授業づくり活動までご参加いただきます。

普段の実践とその背後にある自身の考え方を意識化するのに必要

13:30-14:00 趣旨説明・講義

「子どもが学習参加するための力を育む日本語指導の工夫」 河野俊之(横浜国立大学)

14:00-14:50 事例報告

「子どもたちが考え、伝え合う場をつくる～読書カード活動等を例に～」

高柳なな枝(地球っ子クラブ2000)

「JSL国語科「古典」単元の授業実践～比較分析する力を活かす」

一瀬知未(福生第二中学校)

15:00-15:50 授業づくり

日常のおしゃべりができる子どもを想定し、学習参加のための活動づくりをグループに分かれて行います。タスクに取り組み、グループ間で共有します。

15:50-16:00 閉会

回／テーマ	目標とする 【資質・能力】[課題領域]	内容・構成
第1回 来日間もない子どもの受入れと日本語指導の工夫 ～はじめてとはじめてが 出会って～ 参加者88名 経験4年未満51%	【捉える力】 [子どもの実態の把握] 【育む力】 [日本語・教科の力の育成]	(0)事前課題 講義動画視聴 (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義 ①「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」 ②「幼小の学びの連続性について—子どもの学びの特性に着目して」 (3)事例報告 ①小学校低学年「はじめての日本語で楽しく話そう」 ②小学校中高学年「小学校中学年からの学習支援—日本語ゼロでも学べる教科と日本語」 (4)授業づくり(グループワーク) 三つの課題からグループで一つ選択 ①指示が伝わらない時の工夫 ②文型「～から(理由)」の指導の工夫 ③読み書きへの意欲を高める工夫
第2回 おしゃべりができる子どもへの学習参加支援 ～みんなの考え・わたしの 考え～ 参加者107名 経験4年未満73%	【育む力】 [日本語・教科の力の育成]	(0)事前課題 講義動画視聴 (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義「子どもが学習参加するための力を育む日本語指導の工夫」 (3)事例報告 ①小学校「子どもたちが考え、伝え合う場をつくる—読書カード活動等を例に」 ②中学校「JSL国語科「古典」単元の授業実践—比較分析する力を活かす」 (4)授業づくり(グループワーク) 小5理科「雲のようすと天気の変化」 在籍学級の授業に参加するために日本語教室で学ぶ授業案を作成
第3回 自己表現を支えることばを生む環境づくり ～社会とわたしを繋ぐ～ 参加者88名 経験4年未満54%	【育む力】 [日本語・教科の力の育成] [異文化間能力の涵養]	(0)事前課題 ①講義動画視聴 ②授業づくりの準備(情報整理) (1)目標とする資質能力の確認 (2)講義「アイデンティティから考える自己表現とことばの教育」 (3)事例報告 ①中学校「仲間との関係性の中で自分の生き方を見つめる授業デザイン」 ②小学校「こどもたちの持つことばときもちに光があたる工夫と取り組み」 (4)授業づくり(グループワーク) 各自「ことばで自己を表現する活動」の案を考え、グループで意見交換

(4) 授業づくりタスクと共有

- 内容

事前動画視聴と当日の講義+事例報告からの学びを前提としたタスクを設定

- オンライン上／時間内の協働作業のための工夫

—想定する子どもの条件を提示

子ども像で迷わない、同じ土壌で話し合うことができる

—手順を分かりやすく

例) 〈Step1〉 〈Step2〉

—指示表現のことばの吟味

—オンライン上で作業するためのワークシート

—ユニットスタッフと事例報告者が巡回してフォロー

研修B 第2回

交流「授業づくり」 JSLカリキュラム（理科）

※配布資料参照

タスク「第2回研修Bワークシート」

教科書「大日本図書小学校デジタル教科書・教材サンプル版」

日常会話はできるが、在籍級での授業参加には困難がある二人の児童（来日3年目）の取り出し授業をデザインします。

二人が在籍級での活動に参加できるように、JSLカリキュラムで授業を行うとしたら、どのような探究活動でどのような表現を用いて実施しますか。

グループで①か②を選んで、授業の案（簡単なもの）を考えてください。

【小5理科 「雲のようすと天気の変化」（大日本図書）】

①在籍級でこの単元の学習に入る前に関心を持たせるための活動

②観察後に観察記録から読み取るための活動

＊二人とも日本でTVの天気予報を見たことがある。

※配付資料参照
「大日本図書小学校
デジタル教科書・教
材サンプル版」



移動の際、ご自分のROOM番号をご確認ください

ROOM① タスクNO. (●)
メンバー名：

教科の目標	教科と日本語の両方の目標を立てる。
日本語の目標	
探究活動	目標を達成するためにどのような探究活動を行うかを記入する。
探究活動での 表現とやりとり	教師（支援者）は、児童に問いかけ、発話を引き出す際に、どのような表現を使うのか、児童にはどのような表現を使わせたいかを考え、両者の具体的なやりとりを記入する。

授業案のワークシートの記入欄について

目標：

教科と日本語の両方について目標を立てる。

探究活動：

目標を達成するためにどのような探究活動を行うかを記入する。

探究活動での表現とやりとり：

実際の学習場面を想定し、教師（支援者）は、児童に問いかけ、発話を引き出す際に、どのような表現を使うのか、児童にはどのような表現を使わせたいかを考え、教師（支援者）と児童（A、B）との具体的なやりとりを記入する。

ROOMO タスクNO. (②)

「気象予報士になろう！」

観察後に観察記録から読み取るための活動

教科の目標	雲の様子と天気の間係を考える
日本語の目標	雲の様子を「～のような」を使って表すことができる 天気との間係を考えて「～になると、...になる」を使って表すことができる
探究活動	①雲のようすをとらえる ②その特徴のある雲のとき、どんな天気なのかを気づかせる ③雲からわかる天気予報カードを作る⇒他の人に説明する
探究活動での表現とやりとり	①雲のようすをあげる活動 教 師：何に見えるかな？どんな形かな？ 子どもA：ハートみたい・～のような *多い／少ない、うすい／あつい、大きい／小さい 等 教 師：他にどんなことがわかる？ 子どもB：こっちは白、あれは灰色... 教 師：ほんとだ。西は灰色だね。 *～っぽい、ゆっくり、速い、方角 ②雲の写真を比べる活動 教 師：この雲のときって、どんな天気かな？ 子どもA：雲が灰色になると（雲のようす）、雨（天気）になる。

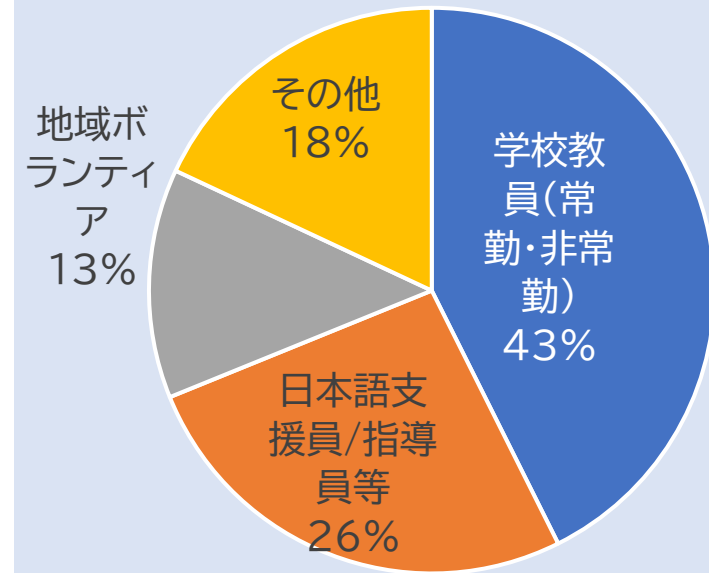
5. 研修の評価

—参加者のアンケート結果より—

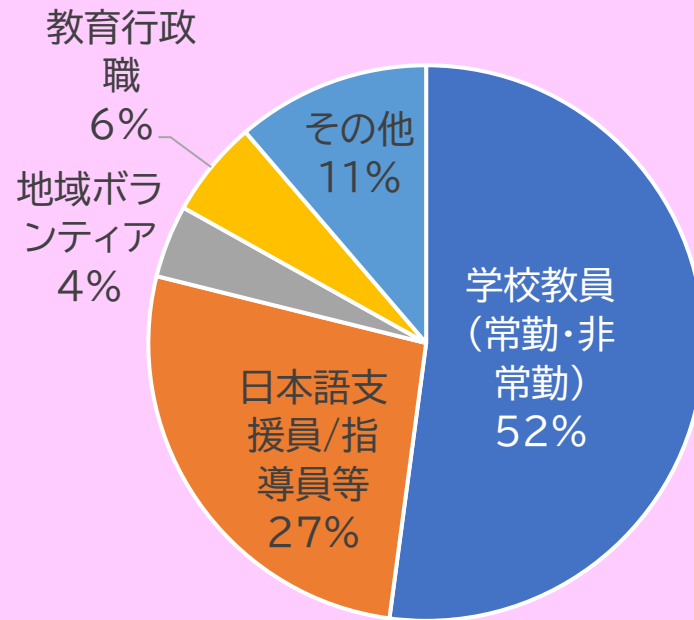


研修の評価（参加者のアンケート結果より）①

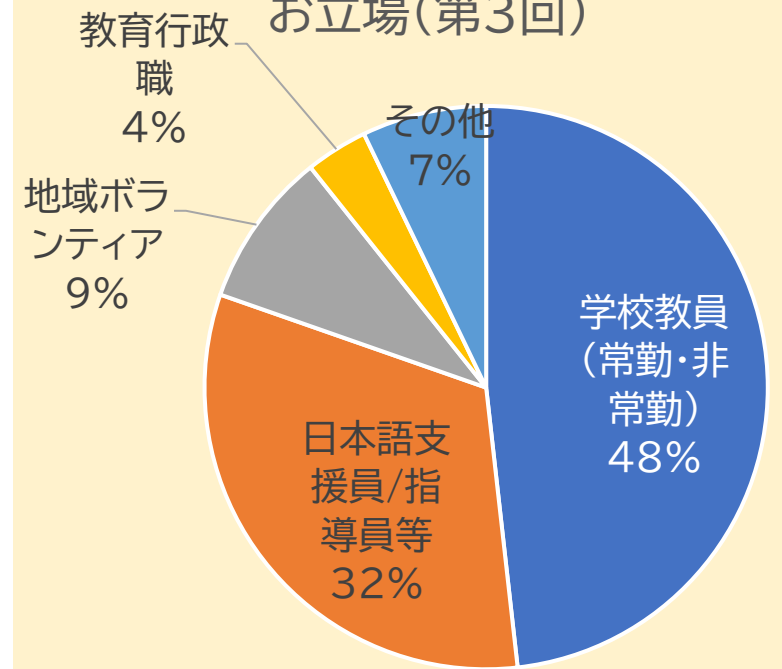
お立場(第1回)



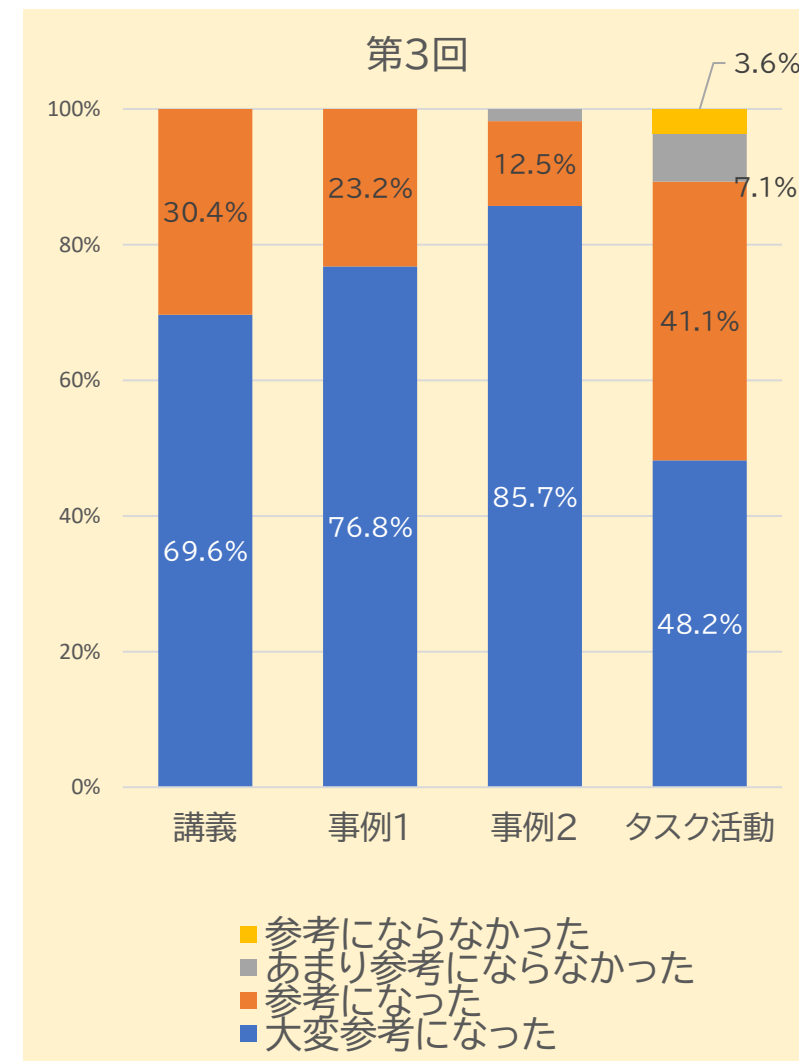
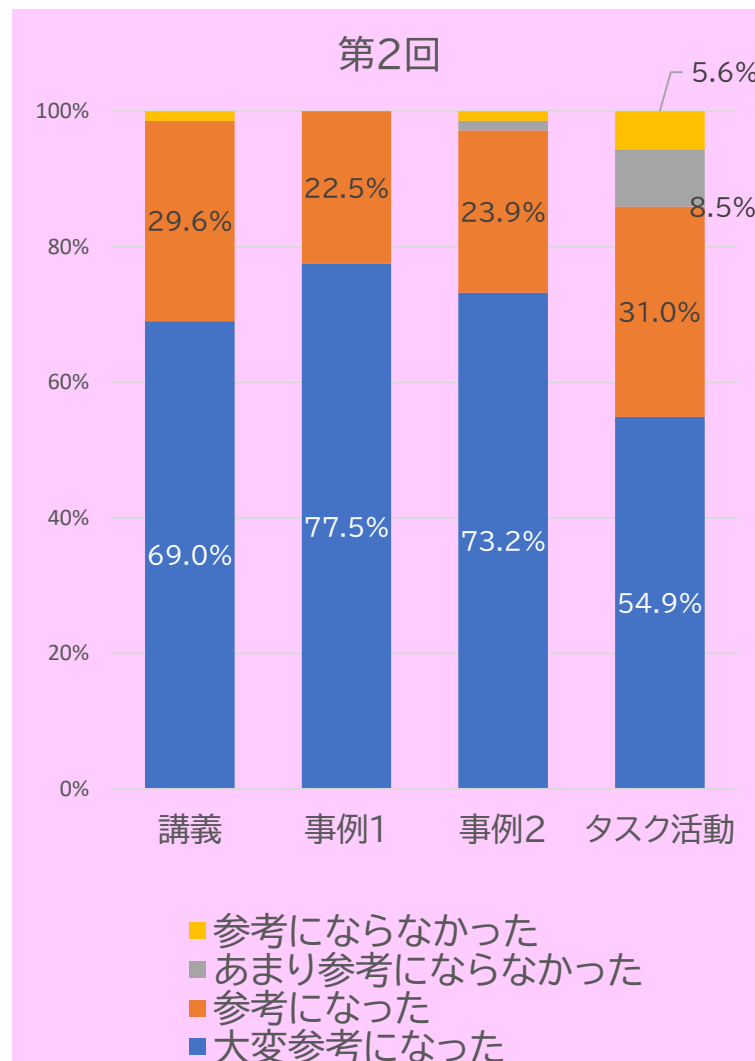
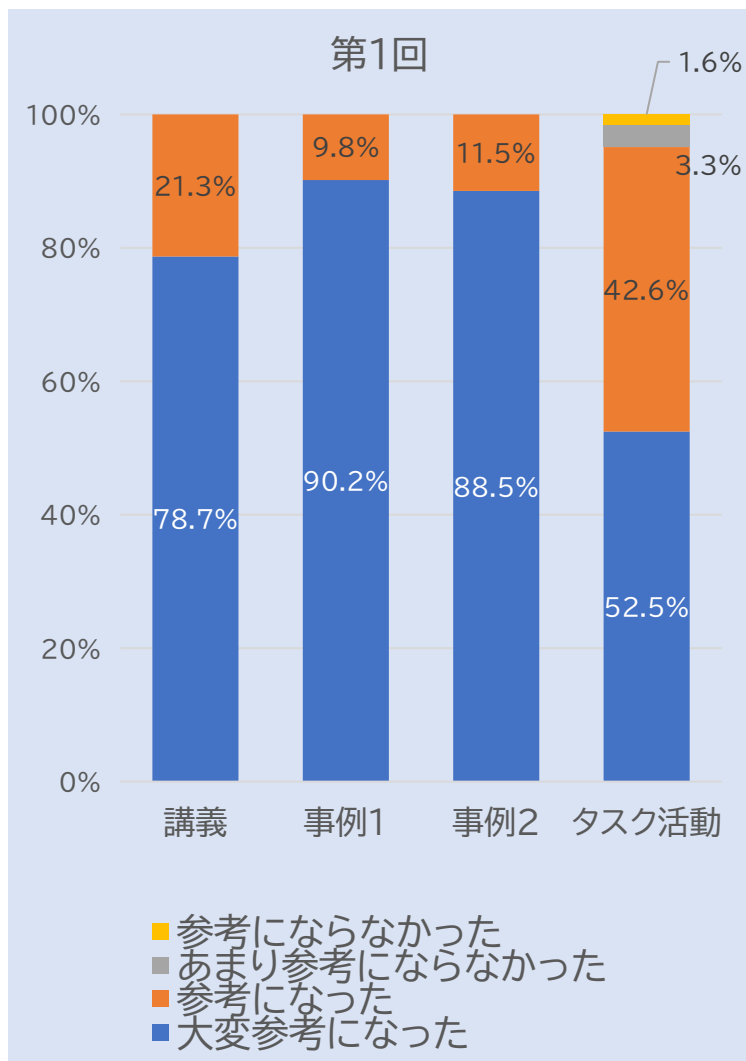
お立場(第2回)



お立場(第3回)



研修の評価（参加者のアンケート結果より）②



研修の評価（参加者のアンケート結果より）③

自由記述欄で多く見られたキーワード

第1回

「来日間もない子どもの受入れと
日本語指導の工夫
～はじめてとはじめてが出会って～」

- ✓体験を通じた指導
- ✓日本語指導と教科学習の関連付け
- ✓学校内での連携

第2回

「おしゃべりができる子どもへの
学習参加支援」

- ✓JSLカリキュラム
- ✓体験を通じた学び
- ✓楽しく学べる工夫
- ✓子どもたちの興味関心
- ✓探究活動

第3回

「自己表現を支えることばを生む
環境作り
～社会とわたしを繋ぐ～」

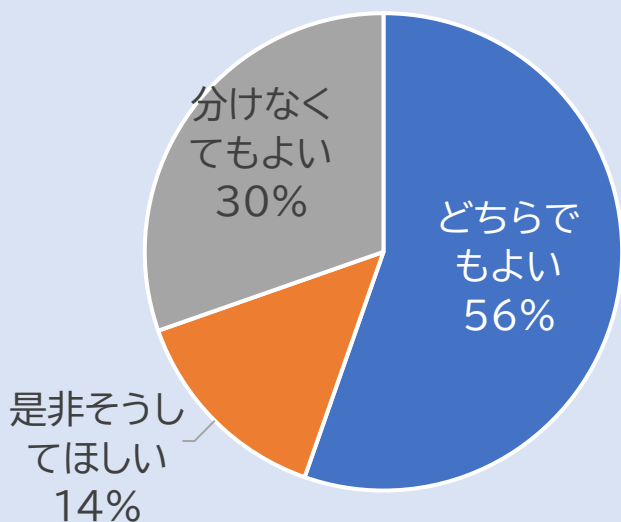
- ✓新たな視点
- ✓学校内での連携
- ✓自己表現
- ✓日本語とアイデンティティの関係

研修の評価（参加者のアンケート結果より）④

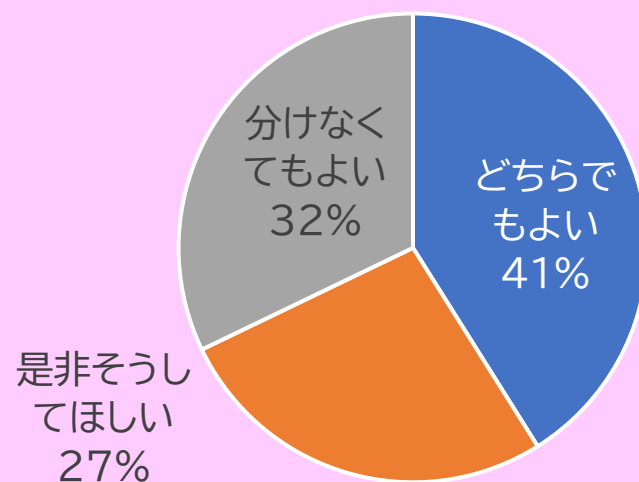
次年度研修の分け方について

自身の専門性向上、
研修の企画、
コーディネート等

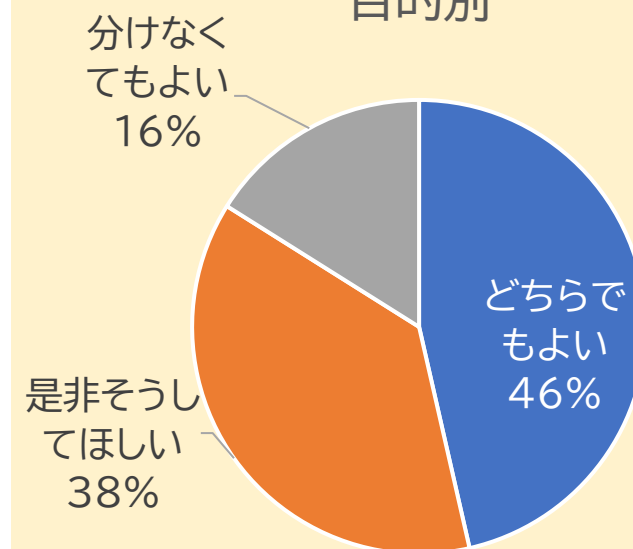
経験の長さ



立場の違い



目的別



自由記述欄に見られた気づき

- 週に数回しか来級しない子どもたちに何をどのように効率的に指導すべきかを考えるうちに、最も大切な経験を基に考え、思考し、そして日本語も身につけていくことを忘れかけていたことに気づかされた。
- 講義で忘れがちになっていることを再確認できた。事前の動画も用意してくださっていたのでしっかり学ぶことができた。事例は具体的なお話に加え、先生方が大切になさっていることを教えていただき、ハッとさせられることもたくさんあった。子どもにとって意味のある活動を忘れないように授業を考えたい。
- 初めて会った方とお互いの情報を共有や意見交換しながら、一緒にタスクを考えていくことでいろんなアイデアが出てきて勉強になった。指導している子どもに合わせてアレンジして使ってみようと思った。

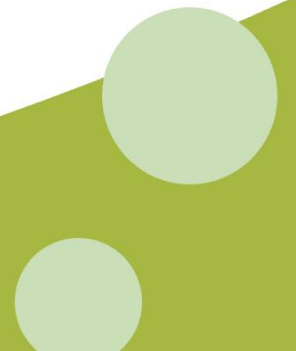
自身の実践のふり返し

授業デザインの考え方

授業や子どもへの
向き合い方

講義、事例、グループワークで他者から情報を得たり、それを自身の実践に取り込んだりする経験を通し、普段の実践とその背後にある自身の考え方を意識化できたのではないか。

6. 研修の成果と課題



学びの場としてのオンライン研修の可能性

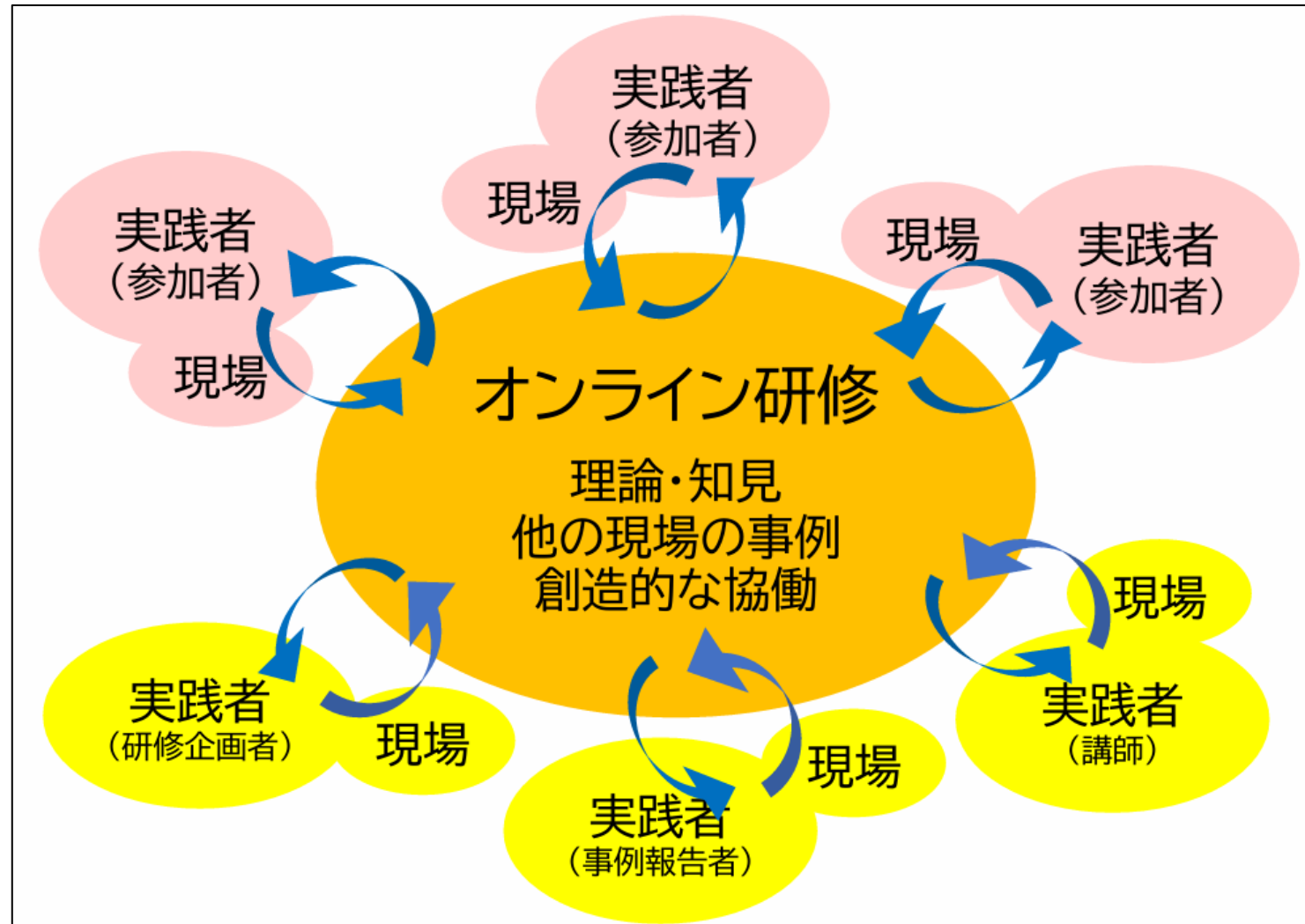


図3 オンライン研修の学びの場のイメージ

学びの場としてのオンライン研修のデザイン

経験を起点とすることの意味

「おとなの学び」（三輪2018）

- ・ おとなの学習者がもともと持っているものを大事にする
- ・ 「経験」 尊重、学習資源として活用、講義との接続、省察（自分の価値観をふり返し、ことばにする）
- ・ 「ダブルループ学習」 ⇔ 「シングルループ学習」

自らの認知の枠組みを吟味し、省察し、それに代わる新しい考え方や行為の枠組みを取り入れながら問題の解決を図る

自分の内部にある認知の枠組みをそのままに、対象に理論や技法をあてはめて問題の解決を図る

離れた場であることの意味

「越境学習」（石山2022）

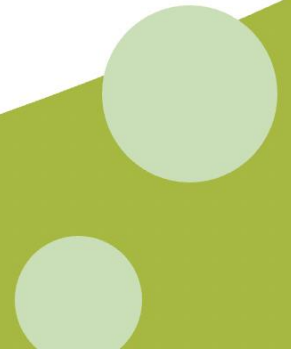
- ・ ホームとアウェイを「往還」（短期間に往き来）し、その刺激によって学習が生起する
- ・ アウェイの環境条件「上下関係のなさ×異質性×抽象性」

実践を共有することの意味

「実践を共有し実践から学ぶ」（齋藤他2012）

実践に関する実施者の解釈と聞き手の解釈のずれや違いが新たな視点をもたらし、両者が自身の実践を意味付け直すきっかけとなる。

7. 今後の研修に向けた課題



1. 研修後のアンケートで目標とした資質・能力を 自身でふり返る項目の検討

研修後のアンケートも参加者自身が教師としての学びのきっかけとなるように

2. 経験の異なる者が共に学び合うオンライン研修の デザイン

・授業づくりのグループワーク

ワークの内容、課題や手順の示し方、進め方など運営上の段取り等

・経験豊富な方の参加の仕方

経験の違いを対等な関係性を担保しながらどのように生かせるか。

1. 引用文献

- (1) 石山恒貴（2022）「省察（リフレクション）で新たな気づきをもたらす越境学習の効果とは」『日本糖尿病教育・看護学会誌』vol.26, No.1, pp73-77
- (2) 公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」のガイドブック』
<https://mo-mo-pro.com/report>
- (3) 齋藤ひろみ・金田智子・浜田麻里（2012）「実践を記す・実践を伝える・実践から学ぶ」『イマ×ココ』ココ出版、pp3-9
- (4) 三輪建二(2018) 『おとなの学びとは何か 学び合いの共生社会』 鳳書房



2. 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット研修資料・報告

(1) 2023年度

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project03/content2.html>

(2) 2024年度

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project03/content9.html>

